

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）
-妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援-

団体名	課題に対する団体としての13年度の取り組み	13年度の取り組み実績	14年度の取り組み行動計画
2.(社)恩賜財団 母子愛育会	<p>・次のような研修事業を実施する</p> <p>母子愛育会： 保健所・市町村の医師、保健婦、助産婦、看護婦、栄養士等を対象に地域母子保健講習会(5回) 病産院の医師、助産婦、看護婦を対象に周産期医療研修(4回) 保健所・市町村の医師、保健婦、助産婦、看護婦、栄養士、相談員等を対象に母子保健セミナー(6回)(民間職場の職員も含む) 愛育班員等研修会(2回)</p> <p>地方研修： 全国愛育会支部にて開催の愛育班育成者、愛育班員研修(15回) 子ども家庭総合研究所 「健やか親子21」など国の政策課題に対応する9つの研究課題を設定し、研究に取り組んでいる 平成13年11月を目途に「子ども総研式・子育て支援質問用紙」を刊行する 子ども総研のホームページ中に"愛育ネット"を設け、「健やか親子21」の解説、国や地方の取り組みをネット上で紹介している</p>	<p>母子愛育会 左記の通り、～ について実施する 子ども家庭総合研究所 左記の通り実施する については、「子ども総研式・子育て支援質問用紙」刊行</p>	<p>H13年度に準じた計画を実施予定</p>
3.(財)家庭保健生活指導センター	<p>・職域からの母子保健・家庭保健セミナーの開催 更年期保健教材「あなたへ」(100万部)作成配布</p>	<p>・職域母子保健セミナーを開催 札幌、東京、名古屋、大阪、福岡にて、産業保健の健康管理者と地域の母子保健関係者に、妊娠中及び出産後の女性労働者への配慮を求めるセミナーを開催した。参加者468名</p>	<p>・平成13年度中に開催したセミナーより「母健連絡カード」の認知や利用が大都市圏でも過半数を超えていないことから、引き続き産業保健の健康管理者へ子育てと仕事の両立支援を普及していきたい</p>
3.家庭保健生活指導センター	<p>24時間電話相談情報「ナイスミディ・聞いチャオコール」の提供</p>		
7.(財)性の健康医学財団	<p>・会員に対して「健やか親子21」を周知するために、ニューズレター等に報告書全文を掲載する ・厚生科学研究(性感染症サーベイランス、STOP STD/HIV)と連携して実態調査、予防思想の普及啓発を行う ・11月開催予定の当財団創立80周年記念大会でもふれる</p>		

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）
-妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援-

団体名	課題に対する団体としての13年度の取り組み	13年度の取り組み実績	14年度の取り組み行動計画
13. 全国助産師教育協議会	<p>・会員に対して「健やか親子21」を周知するため、年度総会において報告書全文を配布する</p> <p>・現在行っている妊娠・分娩期ケアの能力達成目標の検討、および教育方法モデル案の検討を継続する</p> <p>・参加者主体の保健指導方法について、今年度の研修会テーマに取り上げる</p>	<p>・全国助産師教育協議会のニュースレター31号(5月20日発行)にて、「健やか親子21」への参加について、「健やか親子21」の概要、推進協議会、規約、本会の行動計画を掲載した</p> <p>・第37回全国助産師教育協議会総会が、平成13年6月1日(金)～2日(土)に、東京都ナースプラザにて開催された。その中で、広報委員会から、ニュースレター31号(5月20日発行)にて、「健やか親子21」の推進協議会団体に本会が加盟したことを掲載している報告がされた</p> <p>・同総会にて、平成13年度全国助産師教育協議会事業計画のなかに、「助産師教育制度ならびに教育内容の検討」「助産師教育担当者の研修と生涯学習の推進」「助産師教育に関する資料の収集と整理および広報活動の推進」等が含まれ、また、地区別の検討課題として「4年制大学における助産師教育の検討」・関東甲信越地区」「到達目標からみた教育内容・方法：妊娠期(中国・四国地区)・分娩期(近畿地区)・産褥・新生児期(北海道・東北地区)・助産管理(中部地区)」等が活動方針としてだされ、調査が行われた</p> <p>・同総会の2日目「メンター制を取り入れた分娩期の実習指導」や、「4年制大学での助産学実習」「分娩期のケアに関する実習の工夫」などをテーマに交流集会が行われ、「妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保」等、いかに実習を通して効果的な教育をするかの意見交換が行われた</p> <p>・ニュースレター33号(11月25日発行)に、岡山大学医学部・奥田博之教授の「助産師に知ってほしい「非配偶者間生殖補助医療の法則化について」」が掲載された</p> <p>・平成14年3月19日(火)・20日(水)</p> <p>第27回 全国助産師教育協議会研修会 あなたもわたしもエンパワーメント会場 大阪ガーデンパレス 参加者209名</p> <p>・プログラム 1日目 助産師が社会で必要な理由 講演4題</p> <p>2日目 問われる助産師教育 講演2題とシンポジウム</p>	<p>・第38回全国助産師教育協議会総会が、平成14年5月24日(金)～25日(土)に開催予定であり、平成13年度全国助産師教育協議会事業計画であった「助産師教育制度ならびに教育内容の検討」「助産師教育担当者の研修と生涯学習の推進」「助産師教育に関する資料の収集と整理および広報活動の推進」等の結果や、また、地区別の検討課題であった「4年制大学における助産師教育の検討」・関東甲信越地区」「到達目標からみた教育内容・方法：妊娠期(中国・四国地区)・分娩期(近畿地区)・産褥・新生児期(北海道・東北地区)・助産管理(中部地区)」等の調査結果が報告される予定。その結果から、今年度の具体的な行動計画を決定する</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）
-妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援-

団体名	課題に対する団体としての13年度の取り組み	13年度の取り組み実績	14年度の取り組み行動計画
16. (社)全国保健センター連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の研修会のテーマを健やか親子21の課題に重点をおき企画する ・保健センターにおけるホームページ開設を推進して、若い世代への情報の提供や相談の充実を図る ・「全保連事業のあり方に関する懇談会」の提言から、特に都市部対策を実施予定 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会 母子保健事業研修会(約900名参加) 6地区開催:札幌市、山形市、新潟市、大府市、広島市、鹿児島市 妊産婦体操普及指導講習会(104名参加) 2地区開催:富山市、長崎市 妊産婦体操実践指導員養成講習会(44名参加) 開催地区:東京都 ・出版物等 妊娠・出産関係のリーフレット、パンフレット、テキスト及びビデオの頒布 ・ホームページによる情報提供に関する検討 全国市町村の保健センター(保健部局)・ホームページ実態調査を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会 母子保健事業研修会 6地区開催:北海道、秋田県、東京都、京都府、高知県、北九州市 妊産婦体操普及指導講習会 2地区開催:富山市、長崎市 妊産婦体操実践指導員養成講習会 開催地区:東京都 ・出版物等 妊娠・出産関係のリーフレット、パンフレット、テキスト及びビデオの頒布 ・ホームページによる情報提供に関する検討 全保連ホームページに全国の保健センター・ホームページをリンク 保健センター・ホームページの活用方法の検討
17. 全国保健師長会	<ul style="list-style-type: none"> ・現状での母親学級の方法を把握し、今後の課題を示す ・母子支援連絡会議を開催する ・地域リーダーの研修 ・低体重実態調査を行う 	市町村における妊産婦保健指導状況の把握	市町村における父親参加の学級活動等実施の推進 その他、通常の母子保健活動時のきめ細かな指導の徹底
20. (社)日本医師会	平成13年度家族計画・母体保護法指導者講習会の開催	平成13年度家族計画・母体保護法指導者講習会 平成13年12月8日(土) テーマ「産婦人科における患者の安全について - 緊急搬送体制を中心として」	平成14年度家族計画・母体保護法指導者講習会 平成14年12月7日(土) テーマ「周産期医療をとりまく環境整備 - よりよい医療提供のために」
22. (社)日本家族計画協会	<ul style="list-style-type: none"> ・機関誌『家族と健康』を通して「健やか親子21」関連記事を取り上げる ・東京都から委託を受けて実施している不妊専門相談センターでの相談活動・不妊相談セミナーの実施 ・「避妊と性感染症予防のためのスキルアップセミナー」全国7カ所で開催 ・緊急避妊法の推進と緊急ネットワークの拡充 ・妊娠・出産に関するQOLの向上の推進に寄与する健康教育教材の開発並びに頒布 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 機関誌『家族と健康』を通して、「健やか親子21」関連記事を積極的に取り上げる。(年間12回発行) 2) 児童虐待防止の推進に寄与するセミナーの開催と健康教育教材の開発・頒布:8月28日(火)29日(水)、あいち健康プラザ・プラザホール、160名 3) 子供の事故予防に関するセミナーの開催並びに教材開発と頒布:仙台、東京、大阪、広島で開催。147名参加。新しい子どもの誤飲・窒息予防教材として『誤飲チェッカー』、目で見ると子どもの事故予防(山中龍宏著)を発行・頒布 	<ol style="list-style-type: none"> 1) 機関誌『家族と健康』を通して、「健やか親子21」関連記事を積極的に取り上げる 2) 京都から委託を受けて実施している不妊専門相談センターの充実と不妊の当事者への支援を目的とした不妊ホットラインの継続実施 3) 不妊相談セミナーの開催 4) 全国に先駆けて実施している緊急避妊法の推進と緊急ネットワークの拡充と「第一線の産婦人科医に役立つ緊急避妊実践セミナー」の開催(7月) 5) 妊娠・出産に関するQOLの向上、思春期保健対策、児童虐待防止などの推進に寄与する健康教育教材の開発並びに頒布

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）
-妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援-

団体名	課題に対する団体としての13年度の取り組み	13年度の取り組み実績	14年度の取り組み行動計画
24.(社)日本看護協会	<ul style="list-style-type: none"> ・「喫煙対策検討委員会」の運営 ・各地方自治体・医療実施機関等の母子保健への取り組み支援 ・まちの保健室・訪問看護ステーションにおける母子相談モデル事業の実施 ・看護の日における21のキャンペーン活動 ・ナースセンターにおける保健医療福祉関係機関へのマンパワー支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関における助産ケアの質向上に向けた自己点検・自己評価の検討(助産師職能委員会) ・「自己点検・自己評価指標の作成とプレテストの実施」 ・「リプロダクティブ・ヘルスに関する情報提供の検討(助産師職能委員会)」 ・「こうのとりのネットワーク」情報の電子情報化の推進 ・看護職の援助技術研修(東京・神戸にて開催、一般市民にも公開) ・「フリースタイル出産の援助技術」、「参加型妊産婦トレーナーズ研修」 	<ul style="list-style-type: none"> ・不妊看護認定看護師の養成開始(神戸研修センター) ・まちの保健室モデル事業「女性の健康を支援するまちの保健室とプライマリヘルスケアづくり」(千葉県看護協会) ・助産師業務の推進と支援(助産師職能委員会) ・受胎調節実地指導員の活動状況把握のための実態調査 ・医療機関における助産ケアの質向上に向けた自己点検・自己評価指標の冊子作成・普及 ・助産基礎教育についての意識・教育上の課題調査 ・看護職の援助技術研修(東京・神戸にて開催、一般市民にも公開) ・「フリースタイル出産の援助技術」、「参加型妊産婦トレーナーズ研修」
26.(社)日本産科婦人科学会	<ul style="list-style-type: none"> ・学術集会・機関誌の充実 ・登録事務のIT推進等、医療データの充実 ・出生児の権利、福祉に配慮した親子法の整備を求めていく・生殖・遺伝カウンセリング制度の導入 ・公開講座の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・H13年度厚生科学研究:子ども科学総合研究公開シンポジウム ・「未来の明るい家庭のために、今、何ができるのか」における「妊娠・出産のアメニティーと安全性 母親の求めるもの」で、「週産期の医療を再評価する」(講演者:佐藤郁夫)を、日本産科婦人科医会、日本助産婦会、日本母乳の会などの代表とともに発表した。 ・3月12日 JAホール 約250人参加 ・概要:まず我が国における周産期死亡率の推移について述べ、戦後50年間の我が国の周産期死亡率がどのような医療技術によって減少したか、そして今や世界で最低の死亡率であることについて論じた。次に今後我が国の周産期医療に求められるものの中で、安全性を確保しながら妊産婦の快適さをいかに満足させるかについて検討し、ローリスク妊婦に対する対応などについて言及した ・公開講座の開催H13年度は21都道府県において種々のテーマにしたがって公開講座が実施された ・日本産科婦人科学会の学術集会の開催 ・各県、連合地方部会ならびに全国規模での学術集会が開催され、その中で妊娠・出産に関する諸問題、さらには不妊への支援などについて学術的な面から論議された 	<ul style="list-style-type: none"> ・該当する課題について昨年同様の規模で公開シンポジウムを開催し、さらに論議を深める ・日本産科婦人科学会学術集会の開催 ・公開講座の開催:14年度は27都道府県での開催を予定 ・周産期死亡率の調査 ・生殖補助医療に関する調査・研究
27.(社)日本歯科医師会	<ul style="list-style-type: none"> ・第50回母と子のよい歯のコンクールの実施(3歳児歯科健康診断時のよい歯の母子の中央表彰) ・歯の衛生週間の実施(例年6月4日から10日までの1週間。歯科保健関連の団体と協調) 		

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）
-妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援-

団体名	課題に対する団体としての13年度の取り組み	13年度の取り組み実績	14年度の取り組み行動計画
30. 日本周産期学会	<p>・平成14年1月に「不妊治療と周産期医療」のテーマで学術シンポジウムを開催する</p> <p>産科、新生児科、小児科の連携強化 安全・快適で、利用者の声を反映した妊娠・出産ケアの提供 母と子の愛着形成推進 周産期医療ネットワークの向上、救急システムの</p>	<p>周産期医療の具体的課題を取り上げ、周到な準備のもとに学会シンポジウムを開催</p>	<p>平成15年1月に「21世紀の周産期医療システム：問題点と展望」のテーマで学術シンポジウムを開催する</p> <p>周産期医療を担う産科、新生児科、小児科のメンバーが単一学会に参加して学術的交流を進める 周産期関連の専門学会と合同会議を定期的で開催して周産期医療のあり方について検討を進める</p>
35. (社)日本小児保健協会	<p>・全国キャンペーンをさらに推進することと、全国47都道府県支部に小児保健協会として「健やか親子21」に対する取り組み、具体的行動を連絡し、このための体制を整備する</p>	<p>次ぎの事業を行った</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 幼児健康度調査の結果をまとめた 2. 小児保健セミナーの開催 6月24日(日)野口記念会館 「予防接種の現状と今後」参加人数:300名 3. 日本小児保健学会プレコンgres学習セッション * 21世紀は子どもの心の健康を育むためにどうするか(河合隼雄) * ケントからみた日本の子育て(ケント・デリカット) * シンポジウム:乳幼児の心の健康について:誰が、どこで、どのように指導するか」東京ビッグサイト、国際会議場 参加:800名、11月16日 4. 第48回日本小児保健学会 東京ビッグサイト国際会議場 11月17-18日 参加:1800名 <p>シンポジウム * 21世紀の乳幼児健診はどのようにあるべきか * 小児の虐待は予防できるか</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 小児保健シリーズの刊行幼児健康度調査報告書 5. 全国支部小児保健学会における講演並びにこのための支部活動 6. 代表幹事団体として「健やか親子21第4課題推進委員会」を2回開催した。 8月14日、11月1日 全国保健センター、参加:幹事団体、活動計画の検討をおこなった <p>7. 健やか親子21:公開シンポジウム:未来の明るい家族のために、今、何ができるか」への参加:子どもの心の安らかな発達の促進:未来の明るい家族のために、今、何ができるか」への参加並びに14年度打合せの開催(参加:50名) :子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減14年3月12日JAホール参加:250名</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児保健セミナーの開催「小児のアレルギー」6月16日(日)、野口記念会館 2. 第49回日本小児保健学会の開催、10月10日-12日、神戸、ポートピア国際会議場並びにプレコンgres学習セッションの開催 3. 小児保健シリーズの刊行 4. 小児保健研究年6冊刊行 5. 全国47都道府県支部における小児保健学会の開催と支部活動 6. 代表幹事団体として健やか親子21、第4課題推進協議会の開催、幹事団体並びに協力団体と協力して、地域における周産期から思春期にいたる、育児不安の軽減、子どもの心の安らかな発達の促進、虐待防止を目的として地域全体に子育て支援システムを構築する。平成14年度は8-10箇所のモデル地区の設定を予定している。各地区における子育て支援システムの情報の普及のためのシステムも作成する予定

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）
-妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援-

団体名	課題に対する団体としての13年度の取り組み	13年度の取り組み実績	14年度の取り組み行動計画
36. 日本助産学会	<ul style="list-style-type: none"> ・母子保健領域の学際的調査、研究に対しての研究助成 ・ワークショップの開催 ・学会集会の開催 ・学会誌、ニュースレター、ポスター、リーフレット等の発行 ・助産婦活動に対する国際的援助 	<ul style="list-style-type: none"> 研究助成 2件 ・「医療事故防止のための開業助産婦のケア指針」 <p>研究目的：開業助産婦と搬送を受け入れる医療機関からの過去の医療事故あるいは事故を招きそうになったインシデントの聞き取り調査を通して、医療事故を防止するためのケア指針を作成する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「出産に関わる継続したケアシステムの消費者と提供者への効果」 <p>研究目的：消費者ならびにケア提供者が継続したケアシステムをどのようにとらえているかを質的に明らかにする</p> <p>ワークショップ開催 平成13年11月11日(日)10:00～16:00 参加者68名</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 基調講演 「助産学研究の実際」 2) グループワーク <ul style="list-style-type: none"> 妊婦を対象とした研究領域 産婦を対象とした研究領域 新生児を対象とした研究領域 <p>次期学会会長が学会と関連付けて、前年にワークショップを企画することになっている。学生も交えての活発な意見交換が行われた</p> <p>学会集会開催</p> <p>平成14年3月14日 東京都中央区立中央会館 平成14年3月15日 聖路加看護大学 参加者 650名</p> <p>メインテーマ：「先端医療と共存する人間性あふれる助産ケア」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 会長講演 「助産学を拓くために有効な陣痛 - それは研究的思考から始まる」 2) 特別講演 「ことばで人を包むという仕事」 3) 招聘講演 「出産のヒューマニゼーションが社会にもたらすもの - 文化人類学から見る出産の意味 - 」 4) シンポジウム「いのち・からだ・こころ - 愛の助産を社会に」 	<p>平成14年度も13年度の行動計画を踏襲します。</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）
-妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援-

団体名	課題に対する団体としての13年度の取り組み	13年度の取り組み実績	14年度の取り組み行動計画
36. 日本助産学会		<p>5) ワークショップ 助産婦と国際支援 双子の子育て支援 タッチケア 周産期における遺伝相談 性暴力と助産婦の役割 開業の醍醐味 助産研究に活用する生理的反応 助産婦による「いのちの誕生」教育 現場から助産婦教育に期待する グループ運営におけるファシリテーターの役割</p> <p>6) 一般発表 口演 60題 示説 8題 従来の学術集会と異なり、研究発表を「研究」と「実践」の本立とし、「実践」発表は意図的に変化を起こした実践の試みを考察したものであった。また、コミュニケーション・ブースを設け、女性やお母さん方のか都度に触れる機会を作り、会員・非会員、医療関係者以外の参加者も多くみられ、大変に好評な学術集会となった</p> <p>学会誌発行 「日本助産学会誌」 発行部数：各1,300部 第15巻第1号（平成13年8月） 第15巻第2号（平成14年1月） 第15巻第3号（平成14年3月） 学術集會集録集として ニュースレター発行 「日本助産学会ニュースレター」 発行部数：各1,300部 第35号（平成13年6月） 第36号（平成13年12月） 第37号（平成14年3月）</p> <p>国際協力事業 1) セーフサーフット基金：平成12年9月までの寄付金5449,000円を平成13年4月国際助産婦連盟本部に送金 2) スポンサー・ア・ミッドワイフ基金：50万円を目標額に募金活動を展開。目標額に達すると国際助産婦連盟本部に送金。（平成14年2月末現在334,400円）</p>	

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）
-妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援-

団体名	課題に対する団体としての13年度の取り組み	13年度の取り組み実績	14年度の取り組み行動計画
37. (社) 日本助産師会	<ul style="list-style-type: none"> ・助産所における取り扱い基準や緊急搬送基準を他の関係専門家等の意見を加えて、より妥当性のあるものに整備していく・パースプランやケア評価を実施することの重要性について機関誌「助産婦」、研修会等で働きかける ・継続的なケア提供が可能となるような研修会を開催する ・出産時の安全性確保のために、助産婦が緊急事態に対応できるケア能力習得のための研修会を開催する 	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会 分娩リスクマネージメント（H14.2/14 15 大阪府で開催 50名参加） アクティブパース （H13.11/23 大阪府で開催 56名参加） 他各種研修会の開催 概要：助産婦が主体ではなくあくまで産婦が主体であるということを変更して実感した（アクティブパース） ・研究 助産所における取り扱い基準や緊急搬送基準を他の関係専門家等の意見を加えての検討 （厚生科学研究「助産所における安全で快適な妊娠・出産環境の確保に関する研究（青野に協力参加）」） ・その他 「医療事故対策・予防検討委員会」の発足 	<ul style="list-style-type: none"> ・出産環境に関する情報提供 ・助産所における取り扱い基準や緊急搬送基準を他の関係専門家等の意見を加えての検討 緊急時のガイドラインおよび助産婦のための実践マニュアルの作成 （厚生科学研究「助産所における安全で快適な妊娠・出産環境の確保に関する研究（青野班）」に協力参加） ・助産所間の相互評価制度導入の検討 ・パースプラン、ケア評価および継続ケアの実施の推進 ・出産の安全性と快適性に関する各種研修会の開催 ・「医療事故対策・予防検討委員会」の継続 ・「健やか親子21」課題2の推進協議会幹事としての活動
38. 日本性感染症学会	<ul style="list-style-type: none"> ・性感染症の診断・治療に対する2001年版ガイドラインを作成し、平成13年7月発行予定の日本性感染症学会誌に掲載する 	<ul style="list-style-type: none"> 性感染症 診断・治療ガイドライン2001年度版を作成した。協力して活動している(財)性の健康医学財団に発行を委託し、各自治体・保健所等に送付して、性感染症予防の普及啓発活動に役立っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 性感染症 診断・治療ガイドライン2002年度版を作成し、(財)性の健康医学財団に発行を委託し、各自治体・保健所および、各医師会・各大学医学部に送付する。保健所・学校の開催するセミナー・講演会などに当学会の役員・会員が講師として参加し、性感染症に関する知識を拡げ、健康教育の推進を計る。
39. 日本赤十字社	<ul style="list-style-type: none"> ・赤十字病院全体として、母子保健医療を積極的推進の必要性についての共通認識を持つとともに、自治体や関係機関等からの要望と病院の持つ人的物的機能の適合度合いを検討し、可能なものから実施していく 	<ul style="list-style-type: none"> 全国の赤十字病院を対象とした会議等で、少子高齢化対策を赤十字病院の基本方針の一つとすることを指示し、母子保健医療推進の認識の醸成に努め、従来から実施している乳幼児健康相談、妊産婦健康相談等の充実を図った。 また、自治体等との連携のもと、総合周産期母子医療センター（仙台市：仙台赤十字病院）及び地域周産期母子医療センター（東京都：日本赤十字社医療センター）の施設設備整備を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 平成13年度に引き続き、母子保健医療推進の認識の醸成に努めるとともに、自治体等との連携を図りながら、赤十字病院として実施可能な事項についてさらなる推進に取り組む。
43. (財) 日本母子衛生助成会	<ul style="list-style-type: none"> ・母子保健功労顕彰事業の運営 	<ul style="list-style-type: none"> 第23回母子保健奨励賞を開催 全国より15名の母子保健関係者を表彰 	<ul style="list-style-type: none"> 第24回母子保健奨励賞を開催 これからの母子保健を考えるシンポジウムを開催（共催） 妊娠と出産を「新しい母子健康手帳とその利用」というテーマの中に盛り込む。

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）
-妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援-

団体名	課題に対する団体としての13年度の取り組み	13年度の取り組み実績	14年度の取り組み行動計画
44. 日本母性衛生学会	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度学術集会においてシンポジウムの一つに"妊娠、出産に関する安全性と快適さの確保"を取り上げ議論する ・本年度機関誌「母性衛生」の特集テーマとして公募あるいは指名する ・ホームページを通じて会員に課題の意義を周知する 	<ul style="list-style-type: none"> ・シンポジウム 9月27日、ホテルニューオータニ大阪 翠鳳ホール1500名参加、「-より生理的な分娩をめざして-」胎児心拍のモニター、骨盤位分娩の時代の変遷、多胎分娩、開業医の取組み方、大学および開業助産婦の役割・取組、等について、それぞれ表題に沿った6名の演者による発表があり、活発な討論が行われた 概要 各シンポジウムの発表、概要を機関誌に掲載し、出産に際してのより生理的な分娩の意義について、当学会を構成する会員の連携と理解を深めた 	<ul style="list-style-type: none"> ・第43回本学会学術集会(9月5日、6日、旭川市にて開催予定)教育講演「健やか親子21」谷口隆氏、およびシンポジウム 正常分娩、不妊治療と周産期、周産期医療とIT等を取り上げ、種々討論を行うほか、それぞれの概要を機関誌に掲載し、さらに「学習コーナー」において、本学会としての基本方針を取り上げる ・本題と関わりの深い行動の要点を抽出し、本学会ホームページに掲げる
45. (社)日本産婦人科医会	<ul style="list-style-type: none"> ・病診連携のための基礎データ調査、解析 ・助産所における安全性に関する調査、解析 ・研修ノート発刊 <ul style="list-style-type: none"> 不妊症のケア 新生児のプライマリケア ・小規模電話相談の実効性の検討(アンケート) ・プレネイタルビジットの実効性の検討(アンケート) ・周産期ネットワークの実質的な充足率の調査・新たに母相談室システムを全国に構築した 8. モデル地域におけるプレネイタルビジット子健康手帳に掲載された「母性健康管理指導事項連絡カード」の普及 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 平成13年度厚生科学研究、子ども科学総合研究公開シンポジウム 「未来の明るい家庭のために、今、何が出来るのか」における「妊娠・出産のアメニティーと安全性 母親の求めるもの」で、「妊娠・出産の安全性を求めて 快適さをサポートするために」(講演者:朝倉啓文)を、日本産科婦人科学会、日本助産婦会、日本母乳の会などの代表とともに発表した。(3月12日開催、JAホール 約250名参加) 概要:妊娠・出産の安全性に関する問題点と今後の検討課題を論じた 追求すべき快適さを実現するためには、安全性を確保することでサポートしなければならない点が確認された 2. 日本医師会、母体保護法指導者講習会において、「妊婦死亡の実態」を講演した(講演者:川端正清)。平成13年12月8日 場所:日本医師会館 対象:母体保護法指導者150名日本における妊婦死亡の実態を発表し、安全な分娩を構築する礎とした 3. 診療所、病院での緊急搬送を行う産科医の実態調査を行った 4. 助産所での出産の現状と搬送の実態調査を行った 5. 研修ノート「不妊症のケア」、「新生児プライマリケア」発行 6. 不妊症をテーマとした小冊子「赤ちゃんがほしいあなたと彼へ」発行 7. 小規模事業所電話の有効性を確認した 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「診療所、病院での緊急搬送の実態調査」を解析する 2. 「助産所での出産の現状と搬送の実態調査」を解析する 3. 日本産婦人科医会による妊産婦死亡統計をまとめ解析する。以上1.~3.を解析することで、「安全で快適な出産のためのガイドライン」作製を図る 4. 小規模事業所の電話相談体制の充実を図る 5. プレネイタルビジットの全国展開に向け引き続き検討を継続する 6. 新生児聴覚スクリーニングの全国展開につき検討を行う 7. Domestic Violenceによる妊婦虐待の実態を知るために「妊産婦の家庭内暴力についてのアンケート」調査を行う 8. 研修メモや研修ノート、日本産婦人科医会報等で必要な情報を会員に周知徹底させる

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）
-妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援-

団体名	課題に対する団体としての13年度の取り組み	13年度の取り組み実績	14年度の取り組み行動計画
46. 日本母乳の会	<ul style="list-style-type: none"> ・世界母乳週間中(8月第1週)に母乳育児シンポジウムを開催 ・全国産科施設の母子同室、母乳育児の実態調査 ・2001年「赤ちゃんにやさしい病院」認定 ・出生直後の課題(体重減少など)の研究・調査 ・母親向けの「母乳育児なんでもQ&A」の刊行 ・シンポジウム記録集の刊行 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第10回母乳育児シンポジウム開催。8月4日(土)、6日(日)、横浜市プリンスホテル。1300名参加。・母子同室、母乳育児の施設を増やして欲しい。正しい母乳情報を。退院後の支援体制を整えて欲しい 各地での勉強会を開催。 2. 全国産科施設(4800)母乳育児施設アンケート調査 厚生科学研究の一環 3. BFH(赤ちゃんにやさしい病院)を認定推薦する 4. 各地の母親、医療者の会への支援 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 第11回母乳育児シンポジウム8月3日(土)、4日(日)、仙台市国際センター 1100名参加 2. ワークショップ開催・02年5月17日(土)、18日(日)大分市杉の井ホテル 03年1月11日(金)、12日(日)富山市国際会議場 3. 全国母乳育児施設アンケート集計、発表 4. BFH(赤ちゃんにやさしい病院)を認定推薦する。 5. シンポジウム記録集、ワークショップ記録集を発行 6. 離乳食、卒乳を発行 7. 各地の母親や医療者の会の支援 8. 全国病院小児科(約1400)母乳育児施設アンケート調査 厚生科学研究の一環
47. (社)日本薬剤師会	<ul style="list-style-type: none"> ・住民向け啓発パンフレットを30万部程度作製し、上記キャンペーンや薬局店頭で域住民に配布する 	特になし	<ul style="list-style-type: none"> 「妊娠と薬」「授乳と薬」(仮称)などパンフレットの作製・配布 ・妊娠前、妊娠中、授乳中の女性や子供を持つ親に対して、薬の安全な服用方法、薬についての疑問・不安、誤飲防止、かかりつけ薬局の重要性、改正母子手帳(薬の影響等)について情報提供を行うためのパンフレットを作製し、薬局等を通じて広く配布する。(新規に実施) サブメントの正しい使い方についての情報提供 ・妊娠前の葉酸摂取で、新生児の神経管欠損症(無脳症、二分脊椎、脳瘤)等の先天性異常の発症リスクを減らすことができることなどを、薬局等を通じて広く情報提供していく
49. (財)母子衛生研究会	<ul style="list-style-type: none"> ・「妊娠中に覚えておくこと(47県版)」(130万部)の作成、「海外赴任家族のメンタルヘルス」の作成 ・配布、産業保健関係者「母子保健セミナー」(5地区)の開催 ・母子健康手帳副読本「赤ちゃん」(140万部)作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・母子健康手帳副読本「赤ちゃん - そのしあわせのために」配布(継続事業) ・市町村の母子健康手帳交付窓口より妊娠届出者に配布(140万部)。母子健康手帳の改定にあわせて内容改訂を行った ・「妊娠中に覚えておくこととしておくこと」配布(継続事業) ・上記副読本と一緒に配布(130万部) ・「親と子の海外生活ガイド」配布 海外在留邦人に対する母子保健情報の提供事業として、海外での妊娠・出産・育児について、事前情報の取り方、予防接種の注意等をまとめたガイドブックを作成し、市町村、産業保健推進センター等へ配布(2万部) ・「お母さまになる方のための母子保健教室」開催 ・妊娠中の生活管理、行政サービスの利用法などについて。5地区にて計78回開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・母子健康手帳副読本「赤ちゃん - そのしあわせのために」配布(継続事業) ・「妊娠中に覚えておくこととしておくこと」配布(継続事業) ・「お母さまになる方のための母子保健教室」開催(継続事業) ・「働く女性の妊娠・出産・育児」配布

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）
-妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援-

団体名	課題に対する団体としての13年度の取り組み	13年度の取り組み実績	14年度の取り組み行動計画
50.(社)母子保健推進会議	<ul style="list-style-type: none"> ・全国母子保健推進員全国大会の開催 ・母子保健強調週間(10月)の推進 ・妊婦等禁煙運動の推進 ・母子保健推進員研修会の実施 ・機関誌「母推さん」の配布 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回母子保健推進員全国大会の開催 H13年9/21(金) 山口市民会館 1100名 ・母子保健推進員は地域母子保健活動の第一線で活動しており大事な仕事である ・「健やか親子21」の国民運動を積極的に推進していく ・推進員の活動がさらに活性化されるためにも全国組織の充実が必要である ・母子保健強調週間(10月)の推進 ・「妊産婦・乳幼児の健康診査受診勧奨奨励ポスター」の制作と配布・喫煙による障害発生防止運動 ・ブロック別母子保健事業研修会の実施 ・母子保健推進員研修会の実施 ・機関誌「母推さん」の配布 ・関係教育・啓発用教材の企画・制作 ・子どもの虐待防止活動 ・乳幼児事故防止セミナーの開催 ・手作り健康教育媒体コンテストの開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回母子保健推進員全国大会の開催 ・母子保健強調週間(10月)の推進 ・ブロック別母子保健事業研修会の実施 ・母子保健推進員研修会の実施 ・関係教育・啓発用教材の企画・制作 ・子どもの虐待防止活動 ・乳幼児事故防止予防セミナーの開催 ・手作り健康教育媒体コンテストの開催
51.(社)母子用品指導協会	<ul style="list-style-type: none"> ・ママと赤ちゃんのための用品「なにが必要?どう選ぶ」(100万部)を作成配布 ・インターネットホームページ「子育てインフォ」に母子用品e-mono情報を提供 		
54.日本新生児学会	<ul style="list-style-type: none"> ・1ヶ月健診の状況の把握、両親学級の状況の把握 ・妊娠、出産、育児の重要性を社会にアピールするための企画と実施 ・周産期医療のサブスペシャリティの構築とサービス人材の質・量確保 ・母子同室、カンガルーケア等の新生児管理の特質を検討し会員に周知させる ・本年の学会総会で「心とテクノロジー」をシンポジウム、教育講演で取り上げ、学会誌に全文を掲載する 	<ul style="list-style-type: none"> ・第37回日本新生児学会学術集会 平成13年7月15日開催、パシフィコ横浜、約1200名参加 ・シンポジウム「周産期医療と心のケア」 1)不妊症における倫理と心、2)出生前診断の問題点とカウンセリング、3)障害医療の立場から、4)妊産褥期の母性のサポート ・教育講演 1)高度生殖医療の現状、2)出生前診断の現状と未来、3)胎児診断・治療の現状と将来、4)新生児医療の進歩と将来、5)新生児外科の現状と将来 	<ul style="list-style-type: none"> ・第38回日本新生児学会学術集会シンポジウム 平成14年7月14-6日開催予定、神戸国際会議場 ・シンポジウム1.「これから母子支援」 1)より安全なお産を目指して、2) prenatal visit、3)母乳育児の推進、4)NICU長期入院児への支援、5)社会資源の有効活用 ・シンポジウム2.「intact survivalを目指す多胎児の妊娠・分娩管理」 1)多胎妊娠の発生要因の解析と予防、2)多胎妊娠の流産の予防と管理、3)TTTS(discordant twin)の診断と管理、4)多胎妊娠児の予後 ・(1)妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保のためのガイドライン策定 ・(2)出生前ケア、安全な出産とその後のケアのシステムの確立

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）
-妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援-

団体名	課題に対する団体としての13年度の取り組み	13年度の取り組み実績	14年度の取り組み行動計画
59.性と健康を考える女性専門家の会	<p>・シンポジウム「女性の生き方、働き方と妊娠・出産」を開催し(2013.3.3)多面的に出産・育児する女性の抱える課題について問題提起を行う</p> <p>・妊娠、出産の安全性と快適さに関するホームページに文献や統計などの資料を充実させ科学的根拠に基づく情報を提供する</p>	<p>・シンポジウム「あなた自身の設計図を作ろう・手に入れよう」12月8日(土)女性と仕事の未来館 1)小泉改革と生活産業の創出 女性の視点から 島田晴雄(慶應義塾大学経済学部教授、内閣府特命顧問) 2)21世紀を働く女性のための支援施策 岩田喜美枝(厚生労働省雇用均等・児童家庭局局長)多様化する女性労働の健康問題 荒木葉子(報知新聞社 産業)討議・キャリアと健康 あなた自身の設計図は? コーディネーター:岡山慶子(朝日エル社長)・シンポジウム「妊娠・出産と働く女性」平成14年3月3日 女性と仕事の未来館 1)法律・制度から考える妊娠・出産と働く女性 長井聡里(松下電工株式会社 健康管理室室長 産業医) 2)日本の妊娠・出産事情 - 出産医療ライターの立場から 河合蘭(出産医療ライター)3)イギリスの妊娠・出産事情 - 助産婦の立場から 夏目奈緒子(イギリス在住 開業助産婦)4)働く父親 - working fatherとして 松田正樹(男も女も育児時間を! 連絡会 世話人)5)フリートーク</p>	<p>・ニュースレター・HPによる妊娠・出産関連の講演・セミナーの紹介</p>
61.日本糖尿病・妊娠学会	<p>・妊娠糖尿病に関するスクリーニングと妊娠糖尿病にかかった人の分娩後の糖尿病への進展率のフォローアップスタディ</p> <p>・糖尿病妊婦から生まれた奇形児を少なくするための計画妊娠を励行させる</p> <p>・特に我が国では若年者の糖尿病でも欧米と異なり2型糖尿病が多く、見逃されることが多いので、妊娠前から糖代謝異常のチェックを行う必要性を知ってもらおう努力を行う</p>	<p>学術集会 2001年12月1日・2日開催、東京プリンスホテル プロビデンスホール 420名参加</p> <p>概要</p> <p>1)シンポジウム「糖尿病発症因子としての子宮内環境」</p> <p>2)妊娠糖尿病のスクリーニング</p> <p>3)糖尿病合併妊娠、妊娠糖尿病の母児の管理と予後</p> <p>1)低出生体重児および巨大児は将来の糖尿病発症因子である</p> <p>2)妊娠糖尿病の精度の高いスクリーニングプロトコールを定めることが急務である</p> <p>3)女性は妊娠中のみならず、妊娠前からの耐糖能チェックが必要である</p> <p>研究</p> <p>1)学会誌「糖尿病と妊娠」1巻1号(1月)、2号(8月)、3号(11月)を発行した</p> <p>2)糖代謝異常妊娠の全国調査に関する小委員会を設置し、調査のプロトコールを作成した</p> <p>3)「妊娠糖尿病のスクリーニングに関する多施設共同研究」の厚生科学研究班と共同して研究を開始した</p> <p>その他</p> <p>会報第3巻第4号(4月)、第5号(12月)を発行し、本学会員のみならず他学会員、コメディカルスタッフに配布し、糖尿病と妊娠に関するニュースを提供した</p>	<p>1)学術集会 2002年12月6日・7日 奈良新公会堂にて開催する</p> <p>2)学会誌第2巻1号、2号、会報第4巻6号、7号を発行する</p> <p>3)糖代謝異常妊娠の調査研究のため、全国250の産婦人科施設を対象にアンケート調査を行い集計する</p> <p>4)「妊娠糖尿病のスクリーニングに関する多施設共同研究」の中間集計を行う</p> <p>5)日本糖尿病学会、日本産科婦人科学会と協力し、3)・4)の研究成果に基づいて行政に対して女性は妊娠中のみならず、妊娠前の耐糖能チェックの必要性を訴える</p>

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）
-妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援-

団体名	課題に対する団体としての13年度の取り組み	13年度の取り組み実績	14年度の取り組み行動計画
64. 日本母乳哺育学会	<ul style="list-style-type: none"> ・会員に対して「健やか親子21」を周知させるため学術集会において取り上げる ・本学会としての研究と「健やか親子21」の目指す内容とを関連つけた研究を推進させる、またこれらの成果を公表する ・各自がそれぞれの研究課題について推進する 		
65. (社)日本女医会	<ul style="list-style-type: none"> ・会誌に「健やか親子21」について記事を掲載する ・本養成講座用に資料集、教材を開発する ・地域のネットワーク構成の実践法を作成する 	<ul style="list-style-type: none"> ・「女子医学生のための夏季セミナー」開催 日時:平成13年8月19日(日) 場所:女性と仕事の未来館 4Fホール 約100名参加 これからの専門性の選択に参考になり大変有意義であった、という意見が多かった。再開催の希望者が多かった 	<ul style="list-style-type: none"> ・医師としての未来を築くための女子医学生セミナーの継続 ・女性の職業性疾患、特に化学、生物学的因子による生殖障害についてのセミナー開催 ・女性医師の労働環境、健康状況調査
66. (社)日本産業衛生学会	<ul style="list-style-type: none"> ・産業看護職らに対するアンケート調査を行い法改正の前後での状況変化、現状を把握する 	<p>研究会 2001年4月5日開催 高知県医師会館 講堂第1部</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「女性の仕事とストレス」 荒木葉子先生 ・「母性健康管理指導事項連絡カード」活用状況調査の概要と「健やか親子21」検討会の報告書概要 長井聡里先生 ・「働く女性の仕事と健康 これまでの研究」と「妊産婦の健康管理及び妊産婦死亡の防止に関する研究」の報告書概要 野原理子先生 <p>第2部</p> <ul style="list-style-type: none"> 「これからの就労女性健康研究会について」 <p>実際に活動できる責任者等の選出、今後進めていきたい研究内容の検討、具体的な年間の活動計画の作成、第4回就労女性健康研究会の企画等をフリーディスカッションした</p> <p>その他</p> <p>産業看護の先生方との共同研究の提案・検討や、e-male等で、今後進めていきたい研究内容の検討を行った</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「母性をめぐる就業管理」や「性差に基づく医療からみた女性の予防医学」についてこれまでの状況を考察し、母性・女性の予防医学的視点から、性差を考慮した定期健康診断とTHPのあり方の検討を行う
68. (社)日本泌尿器科学会	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化対策の一環として行われる予定になっている各地域での医師会主催の公開講座への学会会員の支援、参加を促す ・思春期の男女が抱える「性」に関する種々の問題点に関し、他団体と協力し全国2～3地域で公開講座を開催する 	<ul style="list-style-type: none"> ・第20回周産期学会シンポジウム 平成14年1月19日開催 大阪国際会議場 約400名参加 概要:男性不妊の現況と課題について講演し、不妊治療支援の必要性について強調した ・第24回関西アンドロロジーカンファレンス、第122回日本不妊学会関西集談会 特別講演 日本シェーリング講堂 約120名参加 概要:男性不妊の現況について概説すると同時に、健やか親子21の活動について理解を求めた 	<ul style="list-style-type: none"> ・精液検査標準化に関するガイドライン作成 概要:男性不妊治療ガイドラインの作製をめざし、まず治療評価の拠り所になる精液検査の本邦における標準化をすすめるべく、検討委員会を組織しガイドラインを作成する ・正常精液の国際比較のための国際共同研究概要?正常精液所見の国際比較のための調査を行う国際共同研究に参加し、日本人の正常精液所見と諸外国との相違を明らかにする ・不妊相談に対する支援概要?各地の保健所で行なわれている不妊相談において、男性不妊に対する相談に関して保健所と連携して、不妊相談を行なう。また不妊カウンセリングを行なう保健婦が男性不妊について理解を深められるよう、地区毎に講習会を開催する

健やか親子21推進協議会・参加団体の行動計画（課題2）
-妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援-

団体名	課題に対する団体としての13年度の取り組み	13年度の取り組み実績	14年度の取り組み行動計画
69. 日本臨床心理士会	<ul style="list-style-type: none"> ・課題への研修会の実施 ・全国大会 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本臨床心理士会主催「子育て支援研修会」を開催・日本臨床心理士会会報に「健やか親子21推進協議会」を報告・各都道府県臨床心理士会「子育て支援担当理事」会議開催(各地の情報を共有)・各都道府県臨床心理士会で子育て支援研修会を開催 	13年度の取り組みを更に発展させる